

「れもねいどメッセージ 2023」

一、認知症の人の思いやその人らしさを尊重し思いやりをもって行動します。

【当事者の思い・願い】

私達、認知症の人の思いやその人らしさを理解してもらうには、ひとり一人が違うということを理解して欲しいです。それは、認知症の人の個別性・多様性を理解することです。性格、生活歴、年齢、症状の現れ方、症状の進み方等、人によって様々です。

そのためには私達多くの当事者が、自分の認知症のことを、不安なく周囲に伝えられる環境が必要です。一方で、認知症の人や家族によっては周囲に知られたくない、話したくないという思いの人もいます。こうしたこともひとり一人の違いと理解した上で、不安のない環境を整えていただきたいと思います。

【れもねいどが当事者と共に目指す姿】

- ①認知症の本人と家族が安心して地域の中に出かけ、活動できる場を作ります。そして、自身の認知症のことを不安なく語れる場となるようつとめます。
*ご自身の認知症を公表することを強要するものではありません。あくまでもご自身の意思が尊重されることが原則です。同じ境遇にある人達に自身の体験や悩み等を語る事、周囲の人や地域の人に語る事等、オープンな仕方も様々です。話したくないという思いも大切に尊重します。
- ②認知症の本人の声を聴き、理解できるよう、認知症を正しく理解するための取組を行います。
- ③認知症の本人と地域住民が出会い、交流できる場を作ります。

一、認知症を正しく理解し世代や立場を超えて繋がりまち全体で支えます。

【当事者の思い・願い】

やさしいまちの実現には誰もが認知症を正しく理解することが必要不可欠です。これは宇治市宣言実現のための共通基盤です。そのためには、多世代にわたる認知症への理解が必要であり、とりわけ若年層の人たちが認知症のことを学ぶ機会がもっと広がればと思います。医療・介護の専門家からの講義、説明だけでなく、私達、当事者の経験を知っていただきたいと思います。そのためには私達がそうした場に登場する機会と登場しやすい雰囲気を作って欲しいと思います。正しい理解を広げ、理解者・応援者・協力者を増やし、町全体で認知症を正しく理解する風土をつくる事が暮らしやすいまちにつながります。

【れもねいどが当事者と共に目指す姿】

- ①宇治市全体で認知症を正しく理解する風土づくりを進め、市民の認知症に対するネガティブなイメージ(疾病観)を変えていきます。
- ②世代を超えて認知症にやさしいまちをつくるため、若い人たち(小中高大)に認知症を正しく理解してもらう機会をつくります。そのために、若い人たちと当事者との交流の機会をつくります。
- ③認知症を理解する上では、本人の個別性・多様性を理解する必要があります。そのためには、色々な当事者と出会う機会が必要です。そうした場、機会をつくります。

一、認知症の人が人生の最期まで安心して暮らせるまちを共につくります。

【当事者の思い・願い】

住み慣れた地域や自宅で、認知症になっても最期まで安心して暮らせる町にするには、安心して認知症であることを公表し、正しい理解の元でサポートを受けられることが必要です。そして自分の特技や経験を活かし、できる限り地域や自宅で自分の役割を発揮できればと思います。

一人暮らしの認知症の本人には、日常的な見守りや声かけ等、介護サービスだけでなく地域の中での身近なサポートが必要であり、それらが届けられれば、安心して暮らすことができます。

人によってその状況は様々ですが、各々の病状や進行に応じて、適切で、そして私達の意思が尊重されるサービスが整っていることが理想です。

そのためには医療や介護・福祉の事業者の皆さんに、多様な本人・家族の希望に沿った多様なサービスメニューを整えて頂くことを希望します。

そして私達も認知症という旅を先に歩く人達と出会い、「認知症とともにいかに生きて行くか」を考える機会があればと思います。

【れもねいどが当事者と共に目指す姿】

- ①認知症の本人と家族が安心して地域の中に出かけ、活動できる場を作ります。そして、自身の認知症のことを不安なく語れる場となるようつとめます。
- ②一人暮らしの認知症の人が地域の中で安心して生活ができるよう、身近な人や支援者によるサポートを行います。
- ③症状進行への備えとして、本人・家族の経験を通して、先人からの学びの機会を作ります。
- ④認知症の症状(ステージ)毎にその人らしい生活が継続できるような医療・介護サービスが切れ目なく提供されるようにつとめます。

一、認知症になっても希望や生きがいを持って認知症と共に生きていきます。

【当事者の思い・願い】

多くの認知症の本人と家族は、認知症の診断を受けた直後は不安・困惑・恐怖・絶望・孤独といった感情と向き合います。しかし、診断後の早い時から同じ境遇の仲間との出会い、支援者との出会いを経験できると、その出会いを通じて生きがいを持って、前を向いて認知症と共に生きることが可能になります。

こうした本人・家族の経験を、そして認知症と共に生きる知恵・技術を、これから認知症の旅を歩み始める多くの人たちに伝え、広げていく活動に当事者も参加していきたいと思えます。

そして認知症の人と家族がそれぞれの立場で参加し、認知症を正しく理解する市民や企業・団体が各々のできる範囲で本人・家族を地域で支える「れもねいど事業」が、さらに宇治市全体に広がって行くことが私達の願いです。

【れもねいどが当事者と共に目指す姿】

- ①診断直後から始まる支援のために、早期から本人・家族が同じ境遇の人や支援者と出会える機会、場をつくります。
認知症の本人・家族が認知症を正しく理解し、認知症との向き合い方、付き合い方を当事者から聞き、学ぶ場をつくります。
- ②「認知症の人にやさしいまち・うじ宣言」とれもねいど活動を市民全体に周知、浸透させるための啓発活動を進めます。
- ③本人・家族の自主的な活動の場が広がるよう支援します。
- ④若年性認知症の本人・家族は「現役世代」の発病であることから、仕事の面等、本人はもちろんその家族の人生にも大きな影響を及ぼします。それだけに多方面にわたる支援が重要になります。

若年性認知症の本人・家族に向けた取組を行います。

令和5年3月21日

第9回認知症フォーラム in 宇治にて

宇治市認知症アクションアライアンスれもねいど推進協議会